

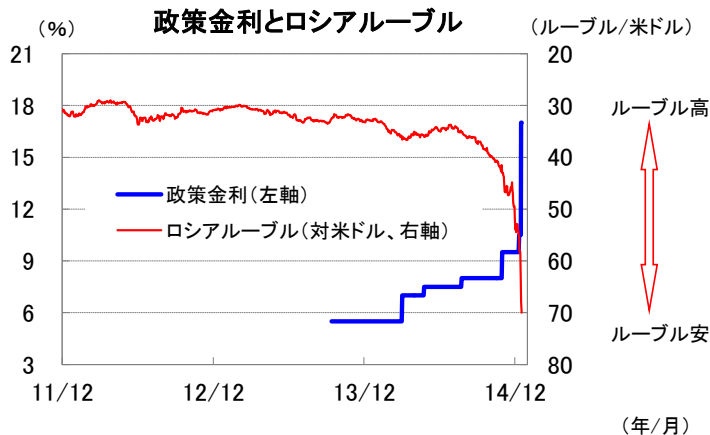
今日のトピック ロシア株式市場、通貨の動向と今後の見通し

原油安が経済、財政への不安を増長、原油の動向がカギ

ポイント1 経済制裁と原油安が背景

大幅な利上げによる防衛も不発

- ロシア経済は、ウクライナ問題を巡る欧米諸国の経済制裁により状況が悪化しています。また、原油や天然ガスの輸出への依存が大きく、原油安の影響を大きく受けています。そうしたなか、エネルギーセクターが大半を占める株式市場とロシアルーブルは足元で大幅に下落しています。
- ロシア銀行（中央銀行、以下中銀）は、ルーブルの急落とそれによるインフレリスクへの対応として、11日と16日に政策金利を合計7.5%引き上げ、17.0%としました。この措置を受けルーブルは対米ドルで一旦上昇したものの、ルーブル安に歯止めはかかっていません。

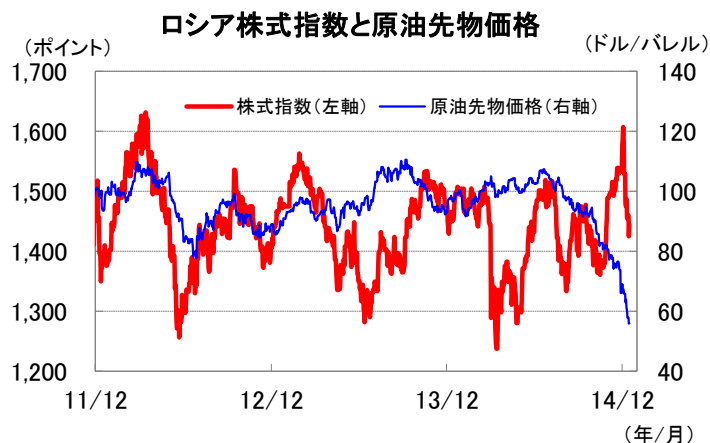


（注）政策金利は1週間物レポ金利。
2013年9月13日（政策金利としての導入日）～2014年12月17日。
ロシアルーブルは2011年12月1日～2014年12月17日（日本時間14時）。
（出所）Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 経常収支、財政収支さらに悪化

原油先安感が払しょくされず

- ロシアにとって原油と天然ガスの輸出は、主要な外貨獲得手段であると同時に政府歳入の多くを占めます。原油の先安観が払しょくされない状況では、経常収支と財政収支が悪化する見通しが強まります。
- 石油輸出国機構（OPEC）や国際エネルギー機関（IEA）は最近相次いで今後の原油需要見通しを下方修正しました。需給が緩和する見通しが強まるなか、主要な産油国では減産の姿勢がうかがわれません。原油の先安観が強まり「ロシア売り」が加速しています。



（注）ロシア株式指数は、MICEXインデックス。原油先物価格はWTI直近限月。
データは2011年12月1日～2014年12月16日。
（出所）Bloomberg L.P. データを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

欧米との関係修復には時間を要する見込み、原油が市場安定のカギ

- ロシア経済が停滞する一因は、欧米諸国による経済制裁です。欧米諸国との関係修復には時間を要するとみられることから、経済の状況改善は早期には見込めない情勢です。
- これまで継続されてきた利上げの影響や、原油

安によるエネルギー分野での投資の減少、企業の外貨建て債務返済負担の増大などから、2015年の経済成長率はマイナスに陥る可能性が高まっています。株式、為替市場は、引き続き、原油価格の動向に神経質な展開が想定されます。

ここも チェック！

2014年11月28日 OPEC減産見送りにより、原油価格はさらに下落
2014年11月26日 最近の指標から見るメキシコ経済（2014年11月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。